

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	公共施設維持管理補助事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち											
	施策目標	22.農を守り、生かすまち											
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1992(H4)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	枚方市公共施設維持管理事業補助金交付要綱				
関係補助金名称	公共施設維持管理事業補助金			サンセット	2017(H29)年度 ~ 2019(R1)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	土地改良区			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	土地改良施設の適切な維持管理を推進し、農業の生産性向上等を図るためには多大な労力や費用がかかる。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	土地改良施設が適切に維持管理されることで、農業生産基盤の維持が図られるとともに地域住民の安全につながっている。				
事業概要	土地改良区が実施する土地改良施設の維持管理事業等に対して支援する。				

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		農業生産基盤の維持が図られるとともに、水路等の適正な管理により地域住民の安全を確保する。				公共施設維持管理事業補助金を交付することで、土地改良区が所管する土地改良施設が適切に維持管理される。				公共施設維持管理事業補助金の交付申請を受け付ける。			
指標説明		土地改良施設の維持管理に起因する地域住民の被害件数				公共施設維持管理事業補助金の交付決定件数				公共施設維持管理事業補助金の交付申請受付件数			
		単位		件		単位		件		単位		件	
指標種類		減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標設定	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	0	0	0	0	11	11	11	11	11	11	11	11
	実績	0				11	11			11	11		
達成度		100%				100%				100%			
分析		想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.19
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,783	2,405	1,515		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	2,783	2,405	1,515		
	物件費計	6,695	6,695	6,676	6,700	100%	
歳出計		9,478	9,100	8,191			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		9,478	9,100	6,676	6,700		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであり、土地改良施設が適切に維持管理されることで、農業生産基盤の維持が図られるとともに地域住民の安全に繋がった。
-------	---

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	農業生産基盤を維持するとともに地域住民の安全を確保するため、引き続き継続して実施する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	土地改良事業補助事業														
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		22.農を守り、生かすまち												
	実行計画名														
1. 事務事業の概要															
種類	市民サービス			特性	選択的事业				区分	一般事務事業					
事業期間	2004(H16)年度				年度	~			年度まで						
根拠法令等	枚方市土地改良事業等補助金交付要綱														
関係補助金名称	土地改良事業等補助金							サンセット	2017(H29)年度		~			2019(R1)年度	
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		農業生産基盤を整備する農業団体(土地改良区、水利組合等)												
	サブターゲット														
	ターゲットが抱える課題		農業団体が実施する農業生産基盤の整備等を支援することで、農業の生産性が向上し農空間の保全及び農業振興に資するとともに、水路等の適正な管理により地域住民の安全につながっている。												
	ターゲットが抱える課題														
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	農業団体が実施する農業生産基盤の整備等を支援することで、農業の生産性が向上し農空間の保全及び農業振興に資するとともに、水路等の適正な管理により地域住民の安全につながっている。														
事業概要	農業団体(土地改良区、水利組合、地域の水利団体)が実施する土地改良事業に対して支援するほか、老朽ため池改修事業の実施やため池ハザードマップを作成する。														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	農空間の保全及び農業振興に資するとともに、水路等の適正な管理により地域住民の安全を確保する。				土地改良事業補助金を交付することで農業生産基盤の整備を促進する。				土地改良事業補助金の交付申請を受け付ける。						
指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	農業生産基盤に起因する地域住民の被害件数				土地改良事業補助金の交付決定件数				土地改良事業補助金の交付申請受付件数						
	単位 件				単位 件				単位 件						
	指標種類 減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標						
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標(見込み)		0	0	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	
	実績		0				9				9				
達成度		100%				45%				45%					
分析		想定通りであった。				1件あたりの事業規模が大きかったため、想定より少なくなった。				1件あたりの事業規模が大きかったため、想定より少なくなった。					

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.71
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	9,541	8,017	5,662		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	9,541	8,017	5,662		
	物件費計	22,717	37,777	42,847	43,439	99%	
歳出計		32,258	45,794	48,509			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	17,072	12,650	12,650		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	744	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	19	10,324	22,976		
	歳入計	0	17,835	22,974	35,626		
一般財源		32,258	27,959	19,873	7,813		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	支援件数は少なかったものの、効果の指標達成度については想定通りであり、農業団体が実施する農業生産基盤の整備等を支援することで、農業の生産性が向上し農空間の保全及び農業振興に資するとともに、水路等の適正な管理により地域住民の安全に繋がった。
-------	---

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	補助対象団体からの個別改修要望は今後も増大することが見込まれるため、事前に各団体の改修予定を把握し、予算の範囲内で計画的な基盤整備を促進する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	穂谷地区農空間活用支援事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		22.農を守り、生かすまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2007 (H19) 年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称	穂谷地区農空間活用支援事業補助金、景観形成推進事業補助金			サンセット	2017 (H29) 年度 ~ 2019 (R1) 年度
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	穂谷地区の農業者団体や景観形成作物を栽培する農業者
	サブターゲット	穂谷地区を訪れ、農のふれあいやコスモスの花摘み等を楽しむ市民
	ターゲットが抱える課題	地域活性化のための取り組みを実施するためには経済的な負担が大きい
	ターゲットが抱える課題	

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	「枚方の里山・収穫の秋穂谷」の実施や観光資源となる景観形成作物の栽培を支援することで、北河内唯一の農業振興地域である穂谷地区の農業の振興と地域の活性化及び農空間の保全につながっている。
------------------------	--

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農」とふれあいの機会を創るため、穂谷地区で黒枝豆、さつまいもの収穫体験や講師とのふれあいなどがおこなえる「枚方の里山収穫の秋穂谷」の開催を支援するために、「枚方の里山・収穫の秋穂谷」実行委員会にイベント開催費用の一部補助等を行う。</li> <li>穂谷地区の活性化を図るため、余暇法に基づく「市町村計画」を策定する。</li> <li>コスモス・ひまわりなど景観形成作物の作付け面積に応じて補助を行う。道路に隣接する農地に一団あたり30a以上作付し、花摘みなど市民が楽しめること等が要件。</li> </ul>
------	--

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	穂谷地区の農業の振興と地域の活性化及び農空間の保全につながる。	「枚方の里山収穫の秋穂谷」が開催される。	穂谷地区農空間活用支援事業補助金を交付する。

指標設定	指標説明	枚方の里山・収穫の秋穂谷参加者における満足度 【算出式: 高評価の回答数/アンケート回答数 × 100】	枚方の里山・収穫の秋穂谷参加者数	補助金交付件数
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位: %	単位: 人	単位: 件
	目標 (見込み)	R2: 80, R3: 80, R4: 80, R5: 80	R2: 10,000, R3: 10,000, R4: 10,000, R5: 10,000	R2: 1, R3: 1, R4: 1, R5: 1
	実績	0	0	0
	達成度	0%	0%	0%
	分析	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、事業を中止したことにより実績が0となった。	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、事業を中止したことにより実績が0となった。	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、事業を中止したことにより実績が0となった。

ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	穂谷地区の農業の振興と地域の活性化及び農空間の保全につながる。	景観形成作物が栽培される。	景観形成推進事業補助金を交付する。

指標設定②	指標説明	枚方の里山・収穫の秋穂谷参加者における満足度 【算出式: 高評価の回答数/アンケート回答数 × 100】	栽培面積 (ha)	景観形成推進事業補助金交付件数
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位: %	単位: ha	単位: 件
	目標 (見込み)	R2: 80, R3: 80, R4: 80, R5: 80	R2: 4, R3: 4, R4: 4, R5: 4	R2: 10, R3: 10, R4: 10, R5: 10
	実績	0	4	11
	達成度	0%	100%	110%
	分析	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、事業を中止したことにより実績が0となった。	0.5程度未達であったが、概ね想定通りであった。	想定通りであった。

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.39
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	1,590	2,405	3,110		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	1,590	2,405	3,110		
	物件費計	1,000	3,752	2,813	3,080	91%	
	歳出計	2,590	6,157	5,923			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		2,590	6,157	2,813	3,080		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	「枚方の里山・収穫の秋穂谷」については、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、景観形成推進事業については概ね想定通りであり、穂谷地区の良好な農空間の保全に繋がった。
-------	---

#### 6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取組方針	「枚方の里山・収穫の秋穂谷」の開催や景観形成推進事業については、地域の意向や費用対効果を含め、事業内容の見直しを検討する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	地産地消推進事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		22.農を守り、生かすまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2012(H24)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称	景観形成推進事業補助金			サンセット	~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	市内小学校の児童			
	サブターゲット	レンゲ米を栽培する農業者			
	ターゲットが抱える課題	小学生の食育や地産地消に対する知識や意識が低い。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	エコレンゲ米を小学校給食へより多く供給することにより、児童の健康の一助となり、食育や地産地消に対する意識向上につながっている。				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市がJA北河内と委託契約をしている学校給食生鮮農産物供給事業において、通常供給している大阪府産ヒノヒカリを北河内産エコレンゲ米に移行する。本市は、エコレンゲ米の集荷・供給に係る費用(あゆみ米の集荷・供給に係る費用との差額)を負担する。</li> <li>エコレンゲ米栽培者に対し、レンゲ種子購入にあたり、1kgにつき350円の補助を行う。</li> </ul>				

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		児童の食育や地産地消に対する意識向上につながる。				エコレンゲ米が小学校給食に使われる。				エコレンゲ米の集荷・供給に係る費用(あゆみ米の集荷・供給に係る費用との差額)を負担する。			
		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定	指標説明	小学校給食におけるエコレンゲ米の使用月数				エコレンゲ米と認識して食べている児童数				エコレンゲ米の集荷・供給に係る費用額			
		単位 月				単位 人				単位 千円			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	2	3	3	3	20,500	20,500	20,500	20,500	1,148	1,715	1,715	1,715
	実績	2				20,678				1,097			
達成度	100%				101%				96%				
分析	概ね想定通りであった。				概ね想定通りであった。				概ね想定通りであった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.09
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	3,578	3,608	718		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人員費計	3,578	3,608	718		
	物件費計	3,836	4,024	1,663	1,768	94%	
	歳出計	7,414	7,632	2,381			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		7,414	7,632	1,663	1,768		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成状況については、概ね想定通りであり、児童の食育や意識向上に繋げることができた。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取組方針	指標は概ね達成したものの、費用対効果に一定の課題があるため、事業の必要性について再度精査し、見直しを検討する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	経営所得安定対策等推進事業補助事業														
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		22.農を守り、生かすまち												
	実行計画名														
1. 事務事業の概要															
種類	市民サービス			特性	非選択的事業				区分	非選択的事務事業					
事業期間	1979(S54)年度				年度	~			年度まで						
根拠法令等	経営所得安定対策等実施要綱・経営所得安定対策等推進事業実施要綱 他														
関係補助金名称	経営所得安定対策等推進事業費補助金							サンセット	2017(H29)年度		~			2019(R1)年度	
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		農業従事者												
	サブターゲット														
	ターゲットが抱える課題		天候の影響や販路の担保性が低い等により、経営に対する不安要素が多い。												
	ターゲットが抱える課題														
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	経営所得安定対策推進事業により農業従事者を支援することで、経営の安定が図られ、農地の維持につながっている。														
事業概要	枚方市農業再生協議会(市、JA北河内、農業委員会、大阪府農業共済組合で構成)の一員として、経営所得安定対策等推進事業の周知を行い、申請者に対し補助金を交付する。														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
					経営所得安定対策等推進事業費補助金を交付する。				経営所得安定対策等推進事業の周知を図る。						
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
	指標説明				経営所得安定対策等推進事業費補助金の交付決定人数				経営所得安定対策等推進事業を周知した水田所有者数						
	単位				単位				人						
	指標種類				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標						
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標 (見込み)						20	20	20	20	1,600	1,600	1,600	1,600	
	実績						25				1,644				
達成度				125%				103%							
分析				年度により若干の変動はあるが、概ね想定通りであった。				想定通りであった。							

3. 人員体制 (人)

	R2
正職員(再任用)	0.90
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,164	3,207	7,178		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	980	797	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	5,144	4,004	7,178		
	物件費計	245	289	263	350	75%	
	歳出計	5,389	4,293	7,441			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	1,225	1,086	263	416		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	1,225	1,086	263	416		
一般財源		4,164	3,207	0	▲ 66		

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については概ね想定通りであったが、農業者の高齢化もあり今後減少していくことも想定される。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	国の事業でもあり、現状通り推進する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	新規就農者育成支援事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		22.農を守り、生かすまち										
	実行計画名		22-1.新規農業者の育成										

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス		特性		選択的事业業				区分		一般事務事業	
事業期間	2012 (H24) 年度				年度	～				年度まで		
根拠法令等	新規就農・経営継承総合支援事業実施要綱 枚方市新規就農者経営安定化支援事業補助金交付要綱 枚方市新規就農者サポート事業に関する要綱 枚方市新規就農者農地集積支援事業奨励金交付要綱											
関係補助金名称	新規就農者農地集積支援事業奨励金 新規就農者経営安定化支援事業補助金 農業次世代人材投資事業補助金						サンセット		2017 (H29) 年度		～ 2019 (R1) 年度	
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット		就農に関心のある市民									
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題		就農に関心はあるが、農業の知識や経験がなく、また、就農後の所得が安定しないなど不安要素が多い									
	ターゲットが抱える課題											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	新たな農の担い手となる市民育成をサポートすることで、遊休農地の解消や都市農業のさらなる振興につながっている。											
事業概要	新たな担い手の掘り起こしを行い、就農につながるまでのフォローを行うとともに、認定新規就農者に対する補助金の交付や就農初期における技術指導のサポートや農地確保の支援等を行う。											

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	遊休農地などの解消につながり、都市農業のさらなる振興が図られる。				新たな農の担い手が就農可能な状態となる				農業に関心のある新たな担い手を支援する			
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	指標説明				指標説明				指標説明			
	遊休農地面積				準農家登録申請者数(延べ)				準農家登録希望の相談者数			
	単位				単位				単位			
	a				人				人			
	指標種類				指標種類				指標種類			
	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	55	50	45	40	2	3	4	5	2	2	2	2
実績	12				2				2			
達成度	178%				100%				100%			
分析	想定より遊休農地面積の解消ができた。				想定通りであった。				想定通りであった。			
ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	遊休農地などの解消につながり、都市農業のさらなる振興が図られる。				新規就農者農地集積支援事業奨励金を交付することで農地の集積が図られる。				新規就農者農地集積支援事業奨励金の交付申請を受け付ける。			
指標設定②	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	指標説明				指標説明				指標説明			
	遊休農地面積				新規就農者農地集積支援事業奨励金の交付決定件数				新規就農者農地集積支援事業奨励金の交付申請受付件数			
	単位				単位				単位			
	a				件				件			
	指標種類				指標種類				指標種類			
	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	55	50	45	40	4	1	1	1	4	1	1	1
実績	12				1				2			
達成度	178%				25%				50%			
分析	想定より遊休農地面積の解消ができた。				新規就農者が一定の農地確保をできているため、想定より本交付件数が少なくなった。				新規就農者が一定の農地確保をできているため、想定より本交付件数が少なくなった。			

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル③		遊休農地などの解消につながり、都市農業のさらなる振興が図られる。				新規就農者経営安定化支援事業補助金を交付することで、新規就農者の経営基盤が安定し、定着が図られる。				新規就農者経営安定化支援事業補助金の交付申請を受け付ける。			
指標設定③	指標説明	遊休農地面積				新規就農者経営安定化支援事業補助金の交付決定件数				新規就農者経営安定化支援事業補助金の交付申請受付件数			
		単位		a		単位		件		単位		件	
	指標種類	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	55	50	45	40	4	1	1	1	4	1	1	1
	実績	12				4				4			
	達成度	178%				100%				100%			
分析	想定より遊休農地面積の解消ができた。				想定通りであった。				想定通りであった。				
ロジックモデル④		遊休農地などの解消につながり、都市農業のさらなる振興が図られる。				農業次世代人材投資事業補助金を交付することで、次世代を担う就農者の経営基盤が安定し、定着が図られる。				農業次世代人材投資事業補助金の交付申請を受け付ける。			
指標設定④	指標説明	遊休農地面積				農業次世代人材投資事業補助金の交付決定件数				農業次世代人材投資事業補助金の交付申請受付件数			
		単位		a		単位		件		単位		件	
	指標種類	減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	55	50	45	40	4	1	1	1	4	1	1	1
	実績	12				4				4			
	達成度	178%				100%				100%			
分析	想定より遊休農地面積の解消ができた。				想定通りであった。				想定通りであった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.68
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,543	3,207	5,423		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	4,543	3,207	5,423		
	物件費計	11,780	14,812	9,669	13,762	70%	
	歳出計	16,323	18,019	15,092			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	7,500	8,238	5,728	6,000		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	7,500	8,238	5,728	6,000		
	一般財源	8,823	9,781	3,941	7,762		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	指標の内容については、概ね想定通りであったが、遊休農地については、想定以上に解消された。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取組方針	新規就農者の支援内容については、ニーズに応じたより効果的な事業内容を検討する。併せて遊休農地の位置付けについて、整理を行う。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	多面的機能支払交付金事業														
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		22.農を守り、生かすまち												
	実行計画名														
1. 事務事業の概要															
種類	市民サービス			特性	選択的事業				区分	一般事務事業					
事業期間	2013(H25)年度				年度	~			年度まで						
根拠法令等	多面的機能支払交付金交付要綱														
関係補助金名称	多面的機能支払交付金事業補助金							サンセット	2017(H29)年度		~			2019(R1)年度	
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		穂谷地区の農業団体(穂谷地区農空間保全協議会)												
	サブターゲット														
	ターゲットが抱える課題		農地・農業用水等を適正に管理するためには経済的負担が大きい。												
	ターゲットが抱える課題														
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	集落機能の維持向上や地域主体の保全管理の取り組みを支援することで、農地・農業用水等の資源の適正な保全管理が行われ、農地の多面的機能の保全につながっている。														
事業概要	国の事業である「多面的機能支払交付金」を活用し、集落機能の維持向上や地域主体の保全管理の取り組み強化につながる農地・農業用水等の資源の保全管理活動を支援する。														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	農空間が持つ多面的機能が持続的に発揮される。				多面的機能支払交付金事業補助金を活用して農地・農業用水等の資源の保全管理や環境保全を図る。				多面的機能支払交付金事業補助金の申請に対する交付を決定する。						
指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	支援した地域の遊休農地の割合 【算出式】支援した地域の遊休農地面積/全体農地面積×100				交付金を活用して保全した農地面積				多面的機能支払交付金の交付件数						
	単位 %				単位 a				単位 件						
	指標種類 減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標						
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標(見込み)		0	0	0	0	2,654	2,654	2,654	2,654	1	1	1	1	
	実績		0				2,654				1				
達成度		100%				100%				100%					
分析		想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。					

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.18
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,180	2,405	1,436		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	3,180	2,405	1,436		
	物件費計	766	766	766	767	100%	
	歳出計	3,946	3,171	2,202			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	574	574	575	574		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	574	574	575	574		
一般財源		3,372	2,597	191	193		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであり、集落機能の維持向上や地域主体の保全管理の取り組みを支援することで、農地・農業用水等の資源の適正な保全管理が行われ、農地の多面的機能の保全につながった。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律に基づき、引き続き事業に取り組む。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	農業振興事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		22.農を守り、生かすまち										
	実行計画名		22-1.新規農業者の育成										

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1994 (H6) 年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	農業経営基盤強化促進法、決裁				
関係補助金名称	農業振興事業補助金		サンセット	2017 (H29) 年度	~ 2019 (R1) 年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	意欲的で府・市が認定する農業者(地域の中心となる農業者)			
	サブターゲット	直販会等に来場する市民			
	ターゲットが抱える課題	高齢化が進み後継者が不足する中、農地を適正に管理し続けることは困難。また、天候の影響や販路の担保性が低い等により、経営に対する不安要素も多い。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	意欲的な農業者を支援することで、農地を適正に管理するとともに、地場産野菜の普及(販売の拡大)等につながっている。				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農政推進対策事業(農業経営基盤強化促進法に基づく事務等)</li> <li>・利用権設定や認定農業者等に係る事務</li> <li>・生産緑地について、買取・追加の協議等</li> <li>・エコ農産物の普及啓発や水稲種子消毒の普及</li> <li>・直販事業や農業施設設置に対する支援</li> <li>・直販会や品評会等の開催</li> <li>・特産物の創出や販路拡大に向けた取り組み 等</li> </ul>				

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)				インプット(活動)							
	販路拡大等により農業者の営農意欲を高め、適正に農地が管理される	直販事業が開催される				直販事業を実施する団体を支援する							
指標設定	指標説明	農地台帳面積				実施された直販事業の開催回数				支援した直販事業の実施団体数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	608	608	608	608	745	750	755	760	9	9	9	9
	実績	608				709				8			
	達成度	100%				95%				89%			
	分析	想定通りであった。				1団体が高齢化のため休止したことにより、想定より減少となった。				1団体が高齢化のため休止したことにより、想定より減少となった。			
ロジックモデル②	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)				インプット(活動)							
	販路拡大等により農業者の営農意欲を高め、適正に農地が管理される	農業者のエコ農産物に関する知識や技術が高まる。				エコ農産物の営農技術や流通量の拡大について指導する。							
指標設定②	指標説明	農地台帳面積				エコ農産物に関する講習会の受講者数				エコ農産物に関する講習会の開催回数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	608	608	608	608	500	500	500	500	13	13	13	13
	実績	608				375				4			
	達成度	100%				75%				31%			
	分析	想定通りであった。				令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、開催回数が少なくなった。				令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、開催回数が少なくなった。			

ロジックモデル③	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	販路拡大等により農業者の営農意欲を高め、適正に農地が管理される	市民が来場する。	「フレッシュ野菜プチマルシェ」を開催する。
指標設定③	指標説明	農地台帳面積	開催回数
		単位 ha	単位 回
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標 (見込み)	608 608 608 608	8 8 8 8
	実績	608	0
	達成度	100%	0%
	分析	想定通りであった。	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、開催しなかったため、実績が0となった。

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.30
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	3,180	8,017	2,393		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人員費計	3,180	8,017	2,393		
	物件費計	2,714	19,610	5,469	6,434	85%	
	歳出計	5,894	27,627	7,862			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	10,389	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	10,389	0	0		
一般財源		5,894	17,238	5,469	6,434		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	令和2年度は新型コロナウイルスの影響や団体の高齢化などにより活動実績が少なくなったものの、効果の指標達成度は想定通りであり、農地の適正な管理や地場産野菜の普及等に繋がった。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	農業従事者の高齢化や担い手不足など、現状の課題を踏まえ、引き続き農業振興に向けた事業内容の充実に向け検討を進める。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	農業ふれあい体験事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		22.農を守り、生かすまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	1994(H6)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	枚方市ふれあいツアー推進協議会規約					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	日常的に農業と触れ合う機会がない市民				
	サブターゲット	市内小学校の児童				
	ターゲットが抱える課題	農業にふれあう機会が少ない				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	農作物の収穫体験等を通じて市民の農業への理解や関心が高まるとともに、地産地消の推進につながっている。					
事業概要	農家が栽培した農産物の収穫体験イベントの実施や、小学生を対象とした食農体験学習(農作物の植え付け、収穫、試食など)を実施する。					

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	農業にふれあう機会が増え、市民の農業への理解や関心が高まるとともに、地産地消が推進される。				アウトプット (活動結果)	市民が農業ふれあいツアーに参加する。				インプット (活動)	農業ふれあいツアーの内容を充実させる。			
	指標説明	ふれあいツアーに初参加する人の割合 【算出式】初参加者数/参加者数×100				ふれあいツアーの参加者数				収穫体験可能な作物種類の数					
指標設定	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標(見込み)	30	30	30	30	1,200	1,250	1,300	1,350	8	9	10	11		
	実績	0				0				0					
	達成度	0%				0%				0%					
	分析	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。					
ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)	農業にふれあう機会が増え、市民の農業への理解や関心が高まるとともに、地産地消が推進される。				アウトプット (活動結果)	小学生が食農体験学習に参加することで、農への関心が高まる。				インプット (活動)	食農体験学習に対する支援を行う。			
	指標説明	ふれあいツアーに初参加する人の割合 【算出式】初参加者数/参加者数×100				食農体験学習を実施した小学校数				食農体験学習の協力農家数					
指標設定②	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標(見込み)	30	30	30	30	13	14	15	16	11	12	13	14		
	実績	0				0				0					
	達成度	0%				0%				0%					
	分析	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したことにより、実績が0となった。					

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.59
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,976	5,612	4,705		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	3,976	5,612	4,705		
	物件費計	1,470	2,750	1,800	1,800	100%	
	歳出計	5,446	8,362	6,505			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	475	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	475	0	0		
一般財源		5,446	7,887	1,800	1,800		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	令和2年度はコロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止したが、事業実施に向け各農家が作物を栽培していたことから、実施者に対して栽培補償として一定の支援を行った。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	市民の農業に対する関心が高まることが想定されるため、農に触れる機会創出に向け、事業内容の充実を検討する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	里山保全事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標		23.豊かな自然環境を大切にすまち										
	実行計画名		23-1.里山の保全										

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2001 (H13) 年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	枚方市里山保全活動補助金交付要綱					
関係補助金名称	里山保全活動補助金		サンセット	R2	~	R4
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	里山を保全する市民・市民団体等				
	サブターゲット	里山やみどりの効果で恩恵を受ける市民				
	ターゲットが抱える課題	里山保全する市民、団体等の固定化及び高齢化				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	多様な主体が連携して、東部地域の里山の将来ビジョンを共有し、保全活動や活用に取り組むことで、市民全体が里山のみどりの効果を享受できている					
事業概要	①里山楽校(森林ボランティア育成事業)の開催 ②森林スペシャリスト育成講座(森林ボランティア育成事業)の開催 ③里山保全団体の支援及び意見交換会の開催 ④森づくり委員会(地権者、市民、市民団体、行政棟で構成している組織であり、津田地区・穂谷地区において設置)の開催 ⑤大阪府森林整備関係事業の調整(大阪府自然公園施設等の業務委託など) ⑥イベント等による里山保全の普及啓発活動の実施 ⑦枚方市東部地域里山保全基金の活用					

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		里山保全に取り組むことで、里山のみどりの効果を享受し、心身ともに健康になる市民が増える。				講座等を通じて、里山保全に精通した方が里山保全に関与する。				里山保全に関する講座を実施する。			
指標設定	指標説明	東部地域の里山に触れ合う機会があることで、心身ともに健康になり安らぎを感じている市民の割合 【算出式: 東部地域の里山に触れ合う機会があることで、心身ともに健康になり安らぎを感じていると答えた回答数/市民向けアンケートの回答者数】				里山保全団体への新規加入者数(累計)				里山保全に関する講座等の開催数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	30	31	32	33	2	4	6	8	16	24	32	40
	実績	49				2				16			
	達成度	163%				100%				100%			
	分析	想定以上の効果が発揮された。				里山保全活動団体のフィールドで行う実習で、会員と交流することにより想定通りの加入に繋がった。				コロナ禍での開催であったが、手法を変更し、想定通り実施することができた。			
ロジックモデル②		里山保全に取り組むことで、里山のみどりの効果を享受し、心身ともに健康になる市民が増える。				市民が里山保全に関して触れる機会が増える。				里山に関する情報発信や、里山ボランティア団体の活動を主とした、里山保全の普及啓発活動を実施。			
指標設定②	指標説明	東部地域の里山に触れ合う機会があることで、心身ともに健康になり安らぎを感じている市民の割合 【算出式: 東部地域の里山に触れ合う機会があることで、心身ともに健康になり安らぎを感じていると答えた回答数/市民向けアンケートの回答者数】				里山保全に関して新たに知識を得た市民の数(累計)				里山保全に関する普及啓発活動の実施数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	30	31	32	33	165	365	575	795	2	6	10	14
	実績	49				149				2			
	達成度	163%				90%				100%			
	分析	想定以上の効果が発揮された。				コロナ禍での開催であり、イベントの募集人数を減らしたため、想定よりも少なかった。				コロナ禍で感染拡大防止対策を行いながら、想定通り実施することができた。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.70
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.11
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	9,787	13,629	13,558		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	237	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	9,787	13,866	13,558		
	物件費計	7,790	4,329	4,805	5,556	86%	
歳出計		17,577	18,195	18,363			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	34	55	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	1,283	3,816	4,685	4,981		
	歳入計	1,317	3,871	4,685	4,981		
一般財源		16,260	14,324	120	575		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	多様な主体が連携して、東部地域の里山の将来のビジョンを共有し、保全活動や活用に取り組むことで、想定以上の効果が発揮でき、市民全体が里山のみどりの効果を楽しめた。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	市民が里山のみどりの効果を楽しんでいると感じてもらうため、多様な主体と連携しながら、引き続きボランティア育成事業や里山保全普及啓発活動、及び活用に取り組む。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	森林環境保全事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標		23.豊かな自然環境を大切にするまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业		区分	一般事務事業		
事業期間	R2年度(2020年度)		年度	~	年度まで			
根拠法令等	森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律、森林法、森林経営管理法							
関係補助金名称				サンセット	~			
関係附属機関名称								
事業対象	メインターゲット	森林の所有者						
	サブターゲット	森林が有する多様な効果を楽しむ市民						
	ターゲットが抱える課題	高齢化が進み、後継者が不足する中、近年の台風災害等による倒木被害や竹林面積の拡大等に対応し、適切に森林を管理し続けることが困難。						
	ターゲットが抱える課題							
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	森林環境保全事業を実施することで、森林整備が進み適切な管理につながるとともに、森林が有する効果を市民全体が享受できる。							
事業概要	多様な機能を有する森林を効果的に保全するため森林環境税が創設され、地方自治体に収入額全額が森林環境譲与税として譲与されることとなった。税の徴収は令和6年1月1日から開始となるが、森林現場の課題に早期に対応する観点から、森林環境譲与税は前倒しで令和元年度より譲与されている。 森林環境譲与税の用途は、森林整備や木材利用の普及・促進であり、本市においては「枚方市森林環境基金」を設置し、法令に基づく森林環境保全事業の執行と財源の管理を行う。							

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
	森林環境譲与税を効果的に活用している	洗い出した候補事業のうち優先順位の高い森林環境保全事業を実施する				効果的な森林環境保全事業候補を照会により洗い出す。							
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
	指標説明	森林環境譲与税額に対する活用事業費の割合 【算出式】当該年度の事業費/当該年度の森林環境譲与税額×100			森林環境譲与税を活用した事業実施件数				森林環境譲与税の活用可能な候補事業件数				
	指標種類	増加することが良いとされる指標			増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	100	100	100	100	3	3	3	3	5	5	5	5
	実績	3				1				1			
達成度	3%				33%				20%				
分析	事業実施に向けて整理すべき課題が多く、実施件数が少なくなったこと、及び令和2年度に実施した事業費が低額であったことから想定より少なくなった。				活用に向けて執行体制など様々な課題があったため、想定より少なくなった。				活用に向けて執行体制など様々な課題があったため、想定より少なくなった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.54
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	—	—	4,307	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	—	—	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	—	—	4,307	
	物件費計	—	—	33,645	33,660	100%
歳出計		—	—	37,952		
歳入	国庫支出金	—	—	0	0	
	府支出金	—	—	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	—	—	0	0	
	市債	—	—	0	0	
	その他	—	—	33,645	33,660	
	歳入計	—	—	33,645	33,660	
一般財源		—	—	0	0	

#### 5. 総括的分析

総括的分析	令和2年度での事業実施に向けて執行体制など様々な課題が生じ、指標を達成できなかったことから、新たな活用方法についての研究や関係部署と課題解決に向けた検討を進める必要がある。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	森林環境譲与税の効果的な活用に向けて、引き続き検討を進める。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	農業被害対策事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	農業振興課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標		24.まちなかのみどりを育てるまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業		区分	非選択的事務事業		
事業期間	2017(H29)年度		年度	~	年度まで			
根拠法令等	枚方市農業被害防止対策連絡協議会規約							
関係補助金名称						サンセット	~	
関係附属機関名称								
事業対象	メインターゲット	有害鳥獣(イノシシ)により、農業被害を受けている農業者						
	サブターゲット							
	ターゲットが抱える課題	個人で講じられる対策には限界がある。						
	ターゲットが抱える課題							
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	有害鳥獣(イノシシ)の捕獲処分により、農業被害がなくなり、安全な耕作につながっている。							
事業概要	有害鳥獣(イノシシ)の捕獲処分を行う。							

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル						農業被害がなくなる。				有害鳥獣(イノシシ)の捕獲処分を行う			
指標説明						有害鳥獣(イノシシ)による農業被害額				有害鳥獣(イノシシ)の捕獲頭数			
指標種類		単位				単位 千円				単位 頭			
指標設定		減少することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標							
		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
指標数値		目標 (見込み)				150	100	50	0	40	40	40	40
		実績				364				29			
達成度						-143%				73%			
分析						近年、イノシシによる農地被害が増加しており、想定よりも農業被害額が多くなった。				例年通り、箱ワナを設置したものの想定より捕獲頭数が少なかった。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.15
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	398	401	1,196		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	398	401	1,196		
	物件費計	350	350	350	350	100%	
	歳出計	748	751	1,546			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
	一般財源	748	751	350	350		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	想定より農業被害額が多く、かつイノシシ駆除実績数も高止まりしているため、より効果的な対策について検討する必要がある。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取組方針	耕作農地等に防護柵を設置する新たな支援策に加え、行政と区単位で協議する場を設けて、イノシシの生態・習性に着目した取り組みについても、検討を進める。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	農業振興課運営事務												
測定年度	2020(R2)年度			部	観光にぎわい部				課	農業振興課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外										
	施策目標		99.施策体系外										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務		区分	庶務的内部管理事務							
事業期間	不明			年度	~		年度まで						
根拠法令等	決裁												
関係補助金名称							サンセット	~					
関係附属機関名称													
事業対象	メインターゲット		課職員										
	サブターゲット												
	ターゲットが抱える課題		課の運営を円滑に図る必要がある。										
	ターゲットが抱える課題												
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	各種庶務事務等を正確かつ迅速に執行することで、農業振興課所管事務を適正かつ円滑で効率的に執行する。												
事業概要	課の運営事務(照会回答業務含む)												

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定	指標説明												
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)											
	実績												
	達成度												
分析													

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.78
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,976	4,009	14,196		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	3,976	4,009	14,196		
	物件費計	1,033	5,523	4,919	5,914	83%	
	歳出計	5,009	9,532	19,115			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	46	71	49		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	13	0	0		
	歳入計	0	59	71	49		
一般財源		5,009	9,473	4,848	5,865		

#### 5. 総括的分析

総括的分析 農業振興課の運営事務については、滞りなく取り組むことができた。

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、事務の効率化を図りながら、所管事務を執行する。